

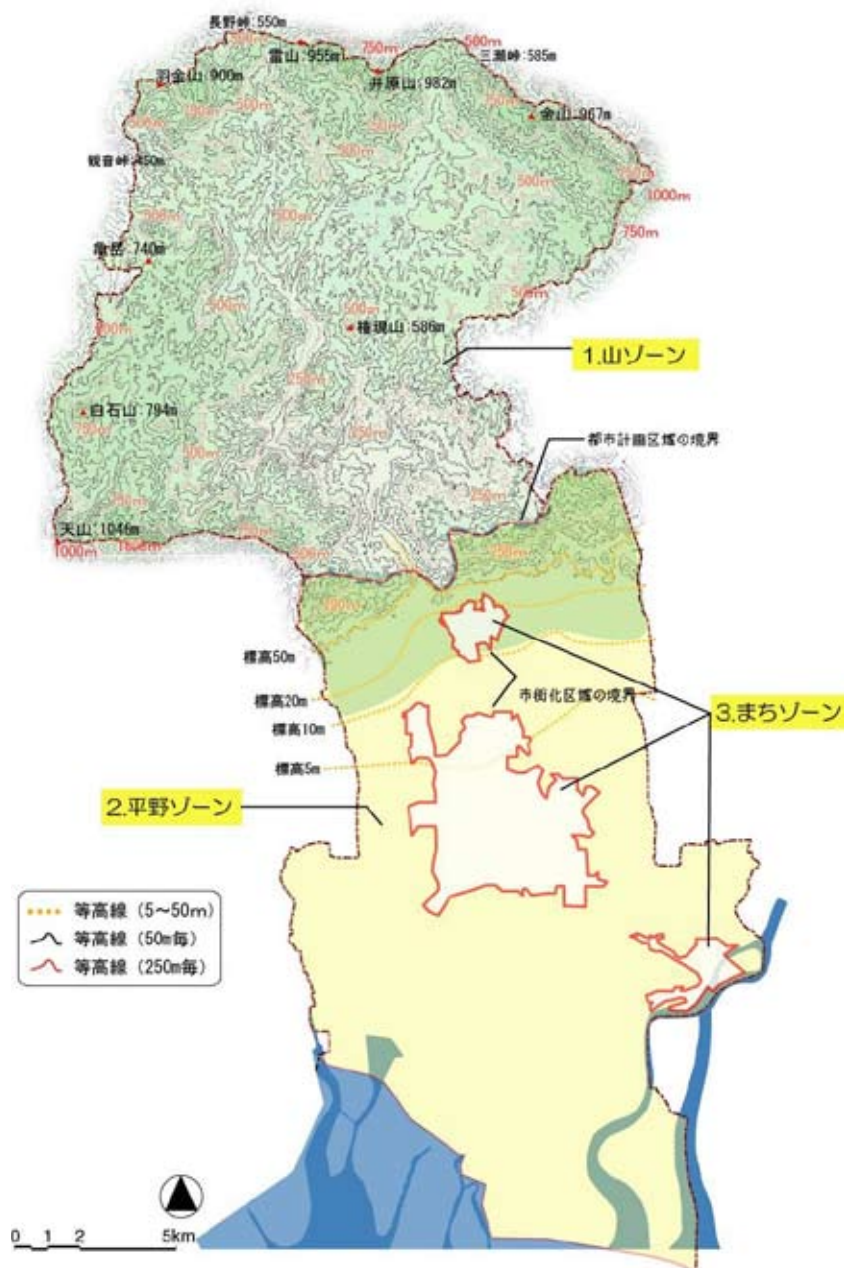
第2章 景観特性と課題

1. 景観構造

(1) 山、平野、まちによって構成される多様な景観

本市の景観は、北部の脊振山系から、南部の有明海沿岸に至る、山、谷、斜面地、平野、有明海などの様々な地形と、その上で営まれている土地利用によってつくり出される多様性が大きな特徴となっています。

これらの多様な景観に対して、場所ごとに適切な対応を施していくために、市全体の景観を大きく①山ゾーン、②平野ゾーン、③まちゾーンに分けて理解することが有効であると考えます（各ゾーンの景観特性は第2章2、範囲は第4章に後述します）。



図：佐賀市の地形

(2) 景観軸となる河川、道路

①河川

嘉瀬川は、脊振山系を源流とし、本市を南北に縦断しており、さらに石井樋(*P83)から分流する多布施川は市街地を流れ、本市はこれらの川を軸としたひとつの流域を形成しています。

さらに、筑後川、巨勢川、城原川等の河川も市内を南北に流れており、嘉瀬川、多布施川とともに、山から有明海へと向かう景観構造を強調する景観軸として存在しています。これらの河川沿いには桜並木や漁村集落、旧城下町等が存在し、本市の自然と歴史・文化、暮らしを伝えるシンボリックな存在としてとらえることができます。

②道路

国道 207 号や国道 34 号、長崎自動車道などの地域を結ぶ数々の交通網が、市域を東西に横断しているのが特徴となっています。これら東西方向の道路軸に加え、市域を南北に貫く道路軸としての国道 263 号や空港道路、市街地を取り囲む環状道路等が整備されています。これによって、北の「佐賀大和インターチェンジ」、中央部の「JR 佐賀駅」、南の「佐賀空港」という三つの交通拠点が大きな道路軸で結ばれています。

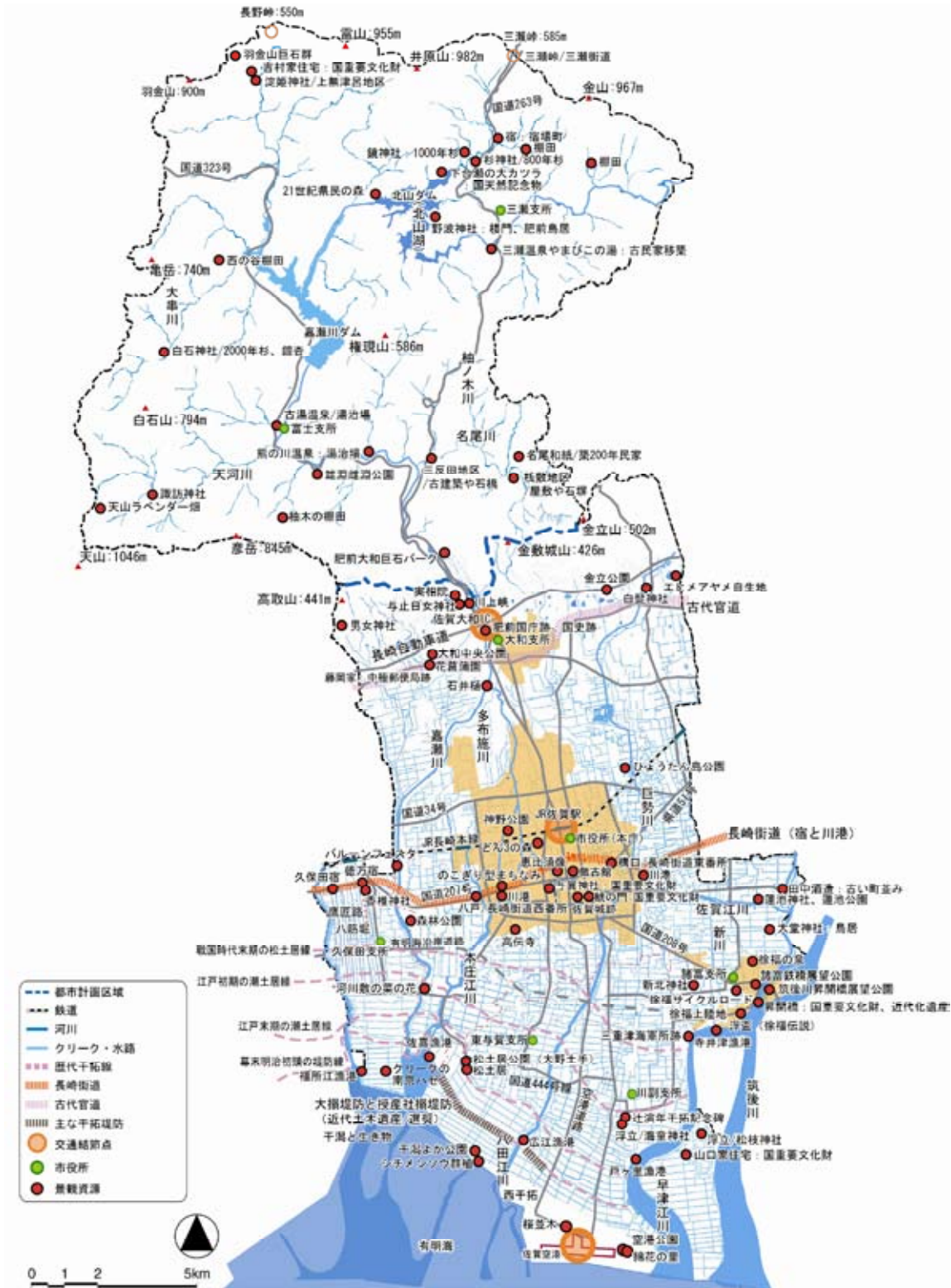


図：佐賀市内の河川と幹線道路

(3) 景観資源

市内には、本市の景観を特徴づける景観資源が随所に見られます。

樹齢約1,000年の杉の巨木、営農活動とともに残る棚田や河川等の自然的資源、本市の歴史をしのばせる寺社や歴史的建造物などの歴史的資源、市民の憩いの場となっている公園や文化施設等の都市的資源などが数多く存在します。また、干潟（有明海）やバルーンフェスタなど、季節や時間を感じることでできる景観資源もあります。

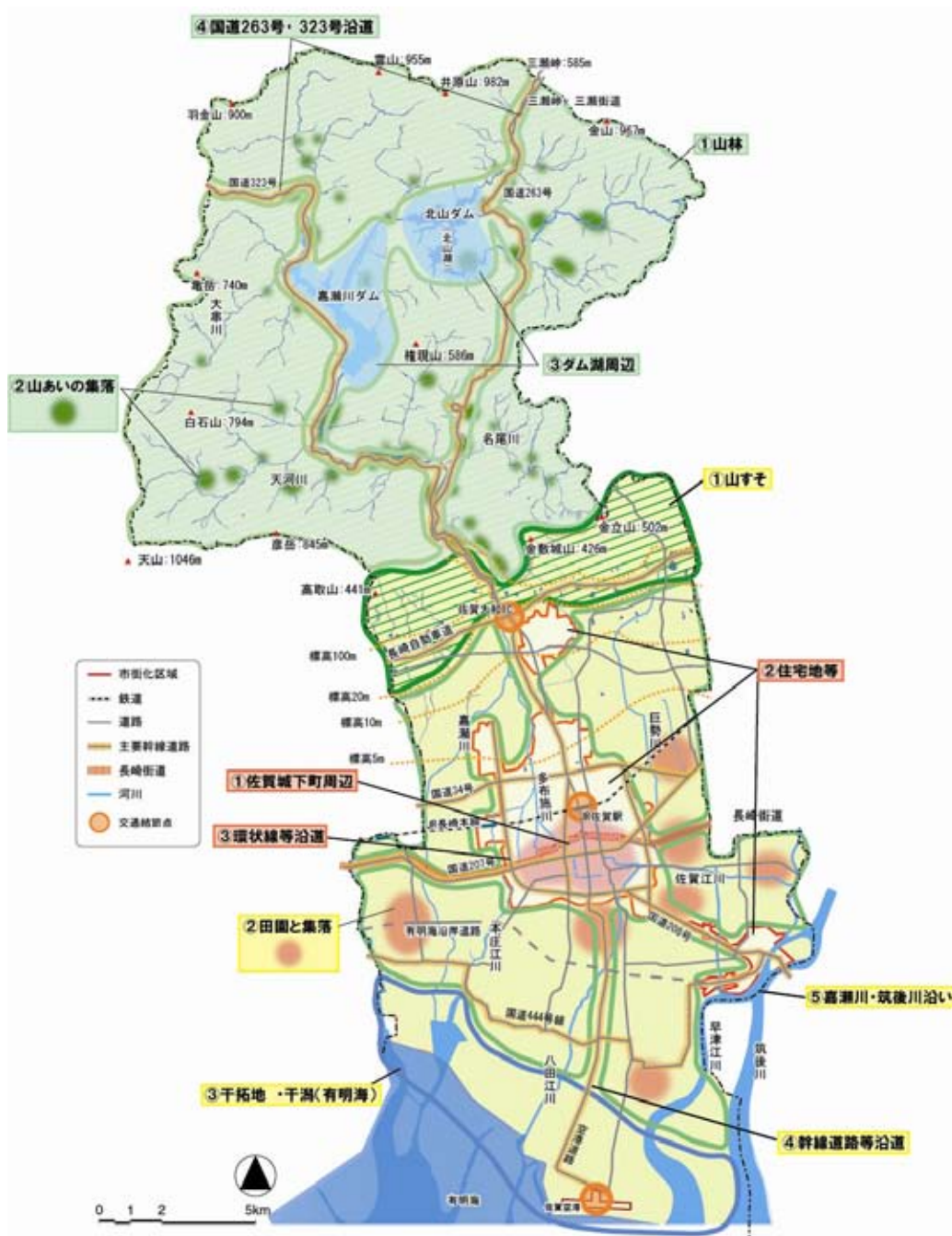


図：佐賀市の景観資源

2. 各ゾーンの景観特性（現況）と課題

各ゾーンの詳細な景観特性（現況）と課題を把握するため、各ゾーンを以下のように分類し、整理しました。

	(1) 山ゾーン	(2) 平野ゾーン	(3) まちゾーン
分類	①山林	①山すそ	①佐賀城下町周辺
	②山あいの集落	②田園と集落	②住宅地等
	③ダム湖周辺	③干拓地・干潟（有明海）	③環状線等沿道
	④国道 263 号・323 号沿道	④幹線道路等沿道	
		⑤嘉瀬川・筑後川沿い	

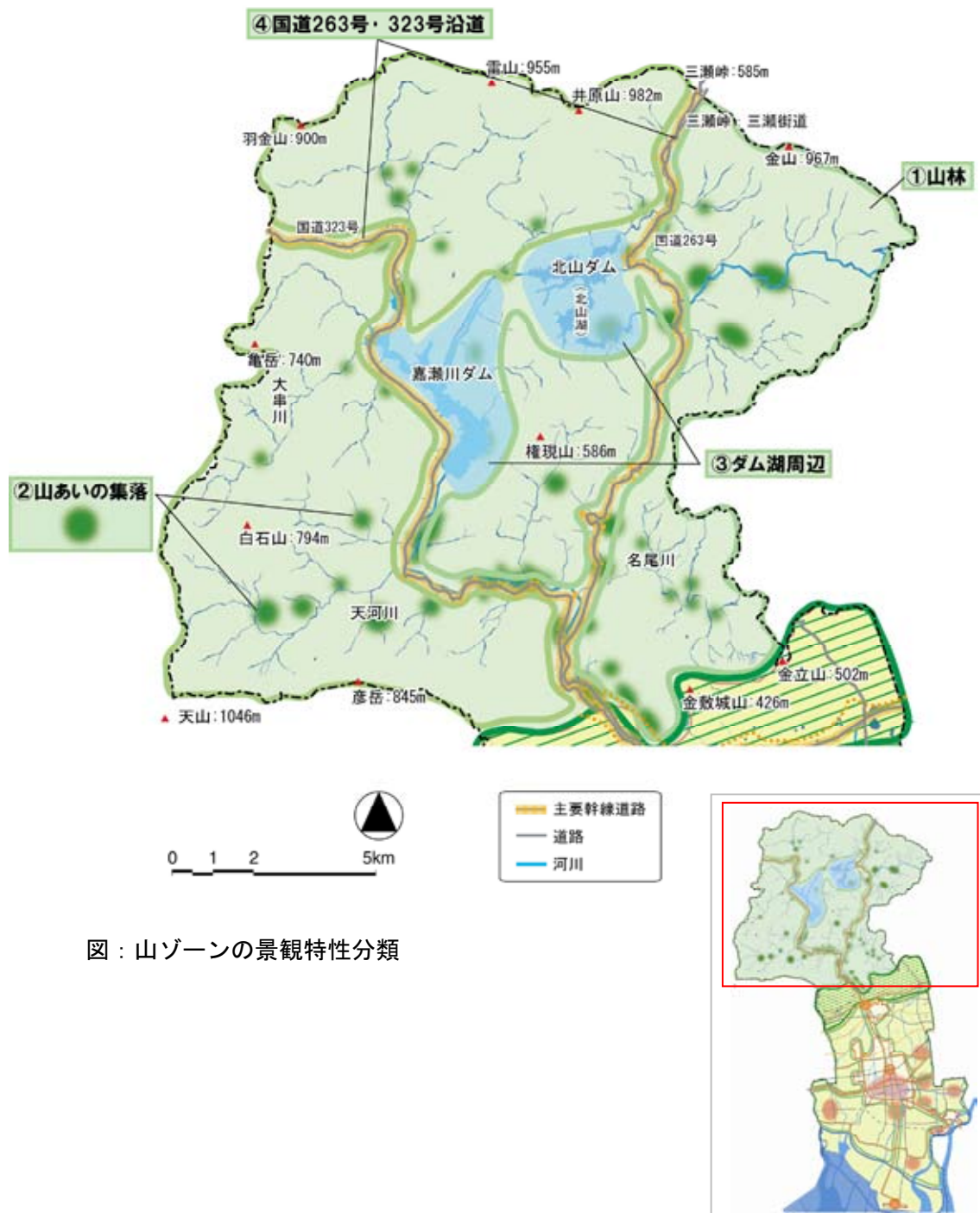


図：各ゾーンの景観特性分類

(1) 山ゾーン

脊振山系のみどり豊かな山林が、大部分を占めており、山あいには、農地と集落が一体となった、懐かしさが感じられる景観を形成しています。また、山林に取り囲まれるように北山ダムや嘉瀬川ダムが位置し、唐津市や福岡市へ繋がる国道がゾーンの南北を貫いています。

このことから、山ゾーンにおいては、①山林、②山あいの集落、③ダム湖周辺、④国道263号・323号沿道に分類し、景観特性（現況）と課題を整理しました。



図：山ゾーンの景観特性分類

①山林

【景観特性（現況）と課題】

- ・市の北部は、金山、雷山、羽金山や権現山等の脊振山系の山なみが連続し、豊かなみどりを形成しています。また、山々を源とする豊富な水等の自然資源を有しており、景観としての役割のみならず、水源かん養機能(*P84)、生物多様性(*P84)の維持、国土や自然環境の保全機能(*P84)等、様々な機能を担っています。
- ・近年、自然豊かな環境を重視するライフスタイル意識の高まりにより、山間部への居住要望も高く、宅地開発も見られます。
- ・山間部の景観の中で目立つ色彩の建築物や、山なみの眺望をさえぎる高さの建築物等により、みどり豊かな山林景観に調和していない場所も見られます。



脊振山系の山なみ



雪化粧の美しい羽金山（標高 900m）



嘉瀬川源流（三瀬村）

②山あいの集落

【景観特性（現況）と課題】

- ・みどり豊かな山林に囲まれた山あいの集落は、棚田や段々畑、家屋、河川等によって構成され、のどかで懐かしさを感じさせる景観となっています。集落内には古い様式の農家住宅や神社等も点在しています。嘉瀬川上流の山あいには、古湯温泉や熊の川温泉が昔ながらのまちなみを残しており、風格のある温泉地の風情を醸し出しています。
- ・このような集落景観は、山あいで自然とうまく付き合いながら^{れんめん*}と生きてきた人々の暮らしの結果として存在しています。
- ・これらの自然と人が織りなす集落景観は、今後の本市の景観形成において模範的な役割を担うものであり、これをできる限り維持していくとともに、市民全体における十分な理解を促進していく必要があります。
- ・建築物、橋やガードレール等の公共施設の色彩が、のどかな山あいの集落景観に調和していない場所も見られます。



棚田と一体となって形成される
農村集落景観（富士町）



山間部の田園と集落（三瀬村）



古湯温泉のまちなみ（富士町）

* 連綿：永く続いて絶えないこと

③ダム湖周辺

【景観特性（現況）と課題】

- ・三瀬や富土地域に広がる山々の中心に位置する北山ダムや嘉瀬川ダムは、豊かなみどりを映し出す大きな湖水景観を形成しています。
- ・四季で移り変わる景観が美しく、市民が自然と触れ合える場所であり、みどりと水のレクリエーション拠点として親しまれています。
- ・橋やガードレール等の公共施設の色彩が、みどり豊かなダム湖周辺の景観に調和していない場所も見られます。



市民の憩いの場である北山ダム湖



レクリエーション拠点として期待される嘉瀬川ダム



④国道 263 号・323 号沿道

【景観特性（現況）と課題】

- ・国道 263 号は福岡市と本市を結ぶ主要道路で、近年観光向けの店舗等が立地し、賑わいを見せています。
- ・国道 323 号は、唐津市と繋がる主要道路で、沿道には古湯温泉や熊の川温泉、嘉瀬川ダム等が立地しています。
- ・みどり豊かな景観に囲まれ、ドライブスポットとして親しまれていますが、山なみの眺望をさえぎる高さの建築物等や必要以上に大きい屋外広告物により、潤いのある沿道景観が損なわれている場所も見られます。



みどり豊かな沿道景観（左：国道 263 号、右：国道 323 号）

観光地として賑わいのある
国道 263 号沿道

■山ゾーンにおける景観資源の分布



図：山ゾーンの景観資源

(2) 平野ゾーン

ゾーンの北部では山すそが東西に広がり、平野側からの眺望景観の背景となっています。市街地を囲むように、集落やクリーク・水路と一体となった田園が広がり、さらに南には干拓地や干潟（有明海）が広がっています。また、佐賀空港や佐賀大和インターチェンジに繋がる幹線道路がゾーンの南北を貫き、嘉瀬川や筑後川がゾーンの西端、東端を雄大に流れています。

このことから、平野ゾーンにおいては、①山すそ、②田園と集落、③干拓地・干潟（有明海）、④幹線道路等沿道、⑤嘉瀬川・筑後川沿いに分類し、景観特性（現況）と課題を整理しました。



図：平野ゾーンの景観特性分類

①山すそ

【景観特性（現況）と課題】

- ・標高 400～500mの^{きんりゅうざん}金立山、^{かなしきじょうやま}金敷城山、^{たかとりやま}高取山などは、平野側からの眺望の重要な構成要素であり、また、長崎自動車道からも望見しやすいため、景観的に重要な場所となっています。
- ・山、平野、まち、海へとつながる流域を形成している本市において、山ゾーンと平野ゾーンの境界に位置する山すそには、緩やかな斜面を利用した果樹園などが広がり、標高 15～100m付近には谷間に埋もれるように、ため池や古墳が点在しています。
- ・山すそにおける営農活動やため池の維持管理活動等によって、水源かん養機能や生物多様性等が維持されているという意味においても、重要な場所であるといえます。
- ・特に、自然と人が織りなす農村集落景観は、文化的景観(*P85)としての社会的評価が高まってきており、積極的な保全が求められます。
- ・山林の一部が削られ、山肌がむき出しになっている場所や、山なみの眺望をさえぎる建築物等により、みどり豊かな山すそ景観が損なわれている場所も見られます。



平野側からの背景となる山なみ
(久保泉町)



自然豊かな山すそ景観（金立町）



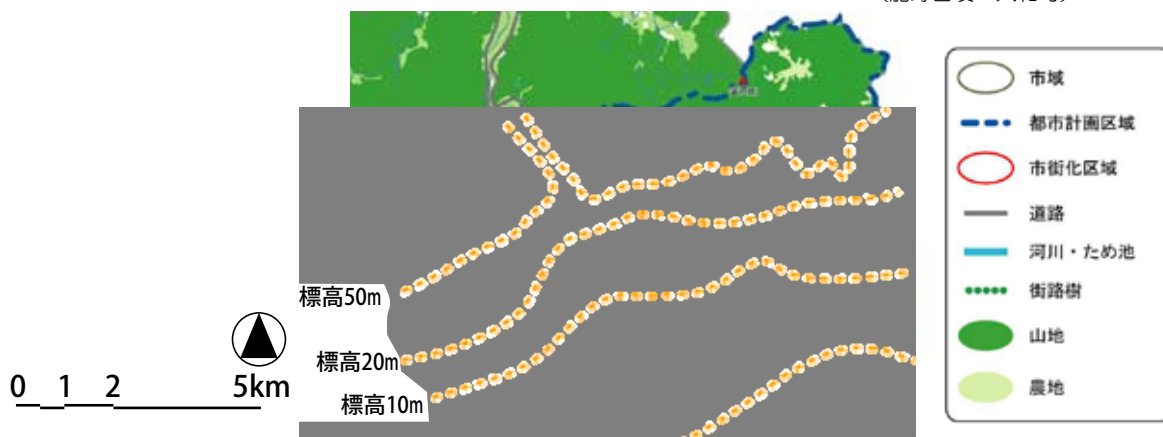
山すそに点在するため池
(観音寺堤：金立町)



緩やかな斜面を利用した果樹園（大和町）



山すそに点在する古墳
(船塚古墳：大和町)



図：土地利用現況（「佐賀市みどりの基本計画」より抜粋）

②田園と集落

【景観特性（現況）と課題】

- ・市街地を取り囲むように田園が広がり、クリークや水路が縦横無尽に走っています。クリークや水路は、灌漑の機能としてだけでなく、治水等の機能も有しています。
- ・広がりある農地の中に島のように集落が寺社とともに点在し、クリークや水路と一体となった農村集落景観を形成しています。このような農村集落の景観は、水不足に悩まされた佐賀平野において、自然とうまく付き合いながら^{れんめん}連綿と生きてきた人々の暮らしの結果として存在しています。
- ・蓮池のように、かつて佐賀城下の物流を担っていた佐賀江川と、当時の面影を残す歴史的建造物や町割が一体となって見られる集落も存在しています。
- ・船、船着場、家屋、水路等によって構成される漁村集落の景観は、有明海の豊かな土壌を活かしながら、連綿と生きてきた人々の暮らしの結果として存在しています。
- ・これらの自然と人が織りなす集落景観は、今後の本市の景観形成において模範的な役割を担うものであり、これをできる限り維持していくとともに、市民全体における十分な理解を促進していく必要があります。
- ・目立つ色彩の建築物等により、のどかで広大な田園景観に調和していない場所も見られます。



広大な佐賀平野の農地



城下町の風情と水運の歴史が残る蓮池町



クリーク・水路、集落が一体となった田園景観【巨勢町（左：航空写真）】

③干拓地・干潟（有明海）

【景観特性（現況）と課題】

- ・雄大な干拓地田園景観が広がっています。
- ・長年にわたる干拓により、各時代の堤防等が干拓地景観のアクセントとなり、干拓の歴史を伝える遺産として残っています。
- ・干潟（有明海）は、時間の流れによって潮の干満や沖へ向かう漁船等の異なる表情を見ることができます。また、季節の変化とともにシチメンソウの紅葉や海苔ひび*が広がる、特徴的な景観を見ることができます。シチメンソウは、市民団体によって種まきや清掃などの活動により保全されており、このような活動を推奨、支援していくことが求められます。
- ・干潟（有明海）は、ムツゴロウや野鳥など希少生物の生息域になっており、景観としてだけでなく、生物多様性が維持されているという意味においても、重要な場所であるといえます。



広大な干拓地田園景観



干拓の歴史を伝える堤防
【大搦・授産社搦堤防周辺：
平成20年度 景観賞】
（東与賀町）



自然豊かな干潟（有明海）、
季節によって色を変えるシチメンソウ

④幹線道路等沿道

【景観特性（現況）と課題】

- ・空港道路は、佐賀空港からの来訪者に対する玄関口であり、市街地へ向けて広がりのある沿道景観を形成しています。
- ・国道263号は、佐賀大和インターチェンジから市街地に来訪者を迎える導入部であり、賑わいのある沿道景観を形成しています。
- ・大型の屋外広告物が乱立することにより雑然とした印象を与え、玄関口としての魅力や、広がりのある沿道景観が損なわれている場所も見られます。



佐賀平野を縦断する空港道路



賑わいと潤いの両立を図っていききたい沿道景観
（左：国道263号、右：国道207号）

* 海苔ひび：養殖ノリを付着生育させる資材（網など）のこと

⑤嘉瀬川・筑後川沿い

【景観特性（現況）と課題】

- ・嘉瀬川は脊振山系を源流とし、佐賀平野を雄大に南流し、有明海に注いでいます。広大な河川敷ではパルーンフェスタ等のイベントやゴルフ場等のレクリエーションの場として利用されています。
- ・筑後川沿いは漁港が点在し、また、木材等の運搬をはじめとした産業景観の役割を果たしながら、雄大に流れています。
- ・三重津海軍所跡は、筑後川の支流である早津江川河口に位置し、現在は公園として利用され、当時の海軍所の景観をよく残しています。
- ・ガードレール等の公共施設の色彩が、みどり豊かで雄大に流れる河川景観に調和していない場所も見られます。



雄大に流れる嘉瀬川、河川敷はレクリエーションの場



嘉瀬川と多布施川に分流する石井樋
(大和町)



雄大に流れる筑後川と国重要文化財の昇開橋

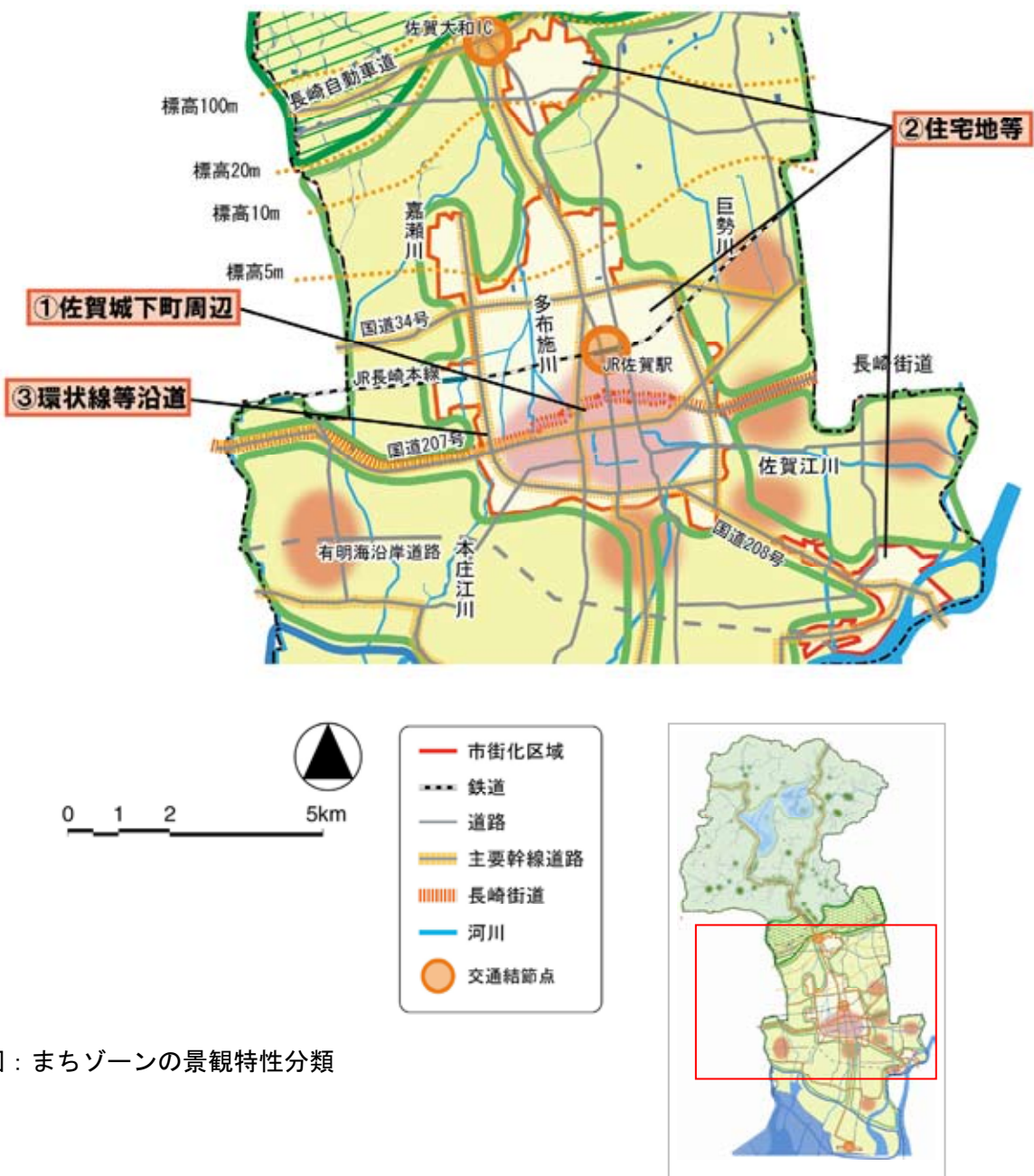


当時の景観を良く残す三重津海軍所跡
(川副町)

(3) まちゾーン

ゾーンの中心部は、城内、長崎街道、佐賀駅、商業地等から構成され、本市の歴史的、都市的要素が集中する地域です。その周りを取り囲むように住宅地等や環状線があります。

このことから、まちゾーンにおいては、①佐賀城下町周辺、②住宅地等、③環状線等沿道に分類し、景観特性（現況）と課題を整理しました。



図：まちゾーンの景観特性分類

①佐賀城下町周辺

【景観特性（現況）と課題】

- ・佐賀駅周辺は、マンションや商業ビルなど高層の建築物が集中しています。
- ・シンボルロード周辺は、個性ある店舗が建ち並び、セットバックや緑化等、みどり豊かでゆとりある街路景観・商業地景観を形成しています。
- ・佐賀城跡や城下町周辺は、お堀や町割が残り、水とみどりが調和した風格のある景観を形成しています。町家や風格ある武家屋敷が点在し、城下町の歴史的雰囲気が残っています。
- ・長崎街道は、町家等の歴史的建造物が点在するとともに、のこぎり型まちなみと町割により当時の面影が感じられます。また、長崎街道を中心に、広い範囲に恵比須像を見ることができます。
- ・中心市街地を東西に松原川が流れ、水とみどりに親しむことができる遊歩道が整備されています。
- ・佐賀駅とシンボルロードを中心とした商業地域は、本市の顔（シンボル）として重要であり、賑わいのある都市景観の再生が求められています。また、佐賀城跡や柳町地区等を中心とした歴史景観は、城下町佐賀の歴史を伝えるものであり、本市の観光拠点としても重要な役割を担っています。
- ・空き店舗の増加により、潤いと賑わいのある連続したまちなみ景観が損なわれている場所も見られます。
- ・お堀周辺や歴史的建造物周辺において、歴史景観に対する配慮のない建築物等により、風格あるまちなみ景観が損なわれている場所も見られます。



高層建築物が集中する佐賀駅周辺



佐賀駅と佐賀城跡を結びシンボルロード、街路樹と個性的な店舗により特徴的な景観を形成



セットバックや緑化等により安らぎとゆとりを演出する店舗



桜や楠などのみどりと一体となって形成されるお堀景観（城内）



のこぎり型まちなみの残る長崎街道（八戸1丁目）



水に親しむことができる松原川周辺

②住宅地等

【景観特性（現況）と課題】

- ・昔ながらの住宅地には、水路や町割が残っています。
- ・30～40年前の住宅地は、ブロック塀等で囲まれ、みどりの少ない整然とした住宅地景観となっています。
- ・新しい住宅地は、土地区画整理事業(*P84)等により、みどりの多い潤いのある住宅地景観を形成しています。
- ・嘉瀬川から分流する多布施川が市街地を流れており、川沿いには桜並木が連続し、市民の身近な憩いの空間となっています。
- ・目立つ色彩の建築物により、閑静な住宅地の景観が損なわれている場所も見られます。
- ・ガードレール等の公共施設の色彩が、みどり豊かな河川沿いの景観に調和していない場所も見られます。



緑化を図っていききたい住宅地景観

みどりが多く潤いを感じられる
新興住宅地景観

四季折々の表情を見せる多布施川

③環状線等沿道

【景観特性（現況）と課題】

- ・沿道型の商業施設が建ち並び、賑わいを見せています。
- ・大型の屋外広告物の乱立、街路樹が少ないことや商業施設等の駐車場における敷地内緑化が少ないことにより、雑然とした印象を与える沿道景観となっている場所も見られます。



賑わいと潤いの両立を図っていききたい沿道景観

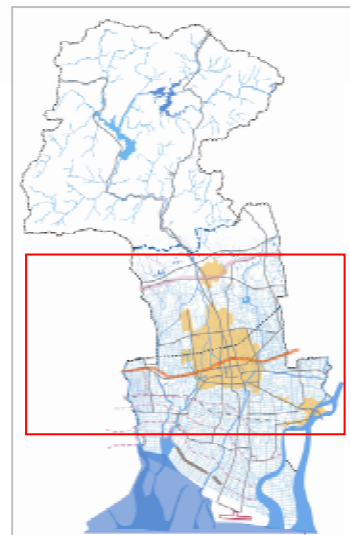


緑化を図っていききたい沿道景観

■まちゾーンにおける景観資源の分布



図：まちゾーンの景観資源



3. 良好な景観形成に向けた課題

これまで述べてきた景観特性（現況）と課題から、本市における良好な景観形成に向けた課題について、以下のように整理しました。

■大規模建築物等に対する景観誘導

- ・本市には、市全域に良好な景観や佐賀市固有の景観が存在します。一方で、市全域において、本市の魅力を損なうような建築物等が散見されます。特に、大規模建築物等は、景観形成に与える影響が大きいため、本市の魅力ある景観を損なわないように、景観への配慮が求められます。
- ・これまで、自主条例による「大規模建築物等の届出制度」の運用により、景観の誘導を図ってきましたが、結果として十分な成果が得られておりませんでした。これは、市全域において一律の誘導基準であったこと、また、色彩の定量的基準がなかったことが、要因のひとつであると考えますので、これに対応するための施策を図っていく必要があります。
- ・また、市民意識調査から、景観づくりの情報提供を求める声が多かったため、具体的な景観への配慮イメージを伝えるガイドラインを作成する必要があります。

■魅力ある公共空間の整備

- ・道路、河川や公園等の公共施設は、景観の骨格であり、長期間にわたって利用されるものであることから、建築物等とともに地域の景観に大きな影響を与えます。
- ・前述した各ゾーンにおける課題からも、市全域において地域の景観に配慮していない公共施設が見られることも事実ですし、市民意識調査からも、公共の建物や道路、橋等が、本市の景観を損ねているという指摘も多くありました。
- ・公共空間には、地域の環境を向上させ、住民に精神的な豊かさをもたらす役割が求められています。したがって、公共事業を行う際には、「佐賀市公共空間のデザインガイドライン」「佐賀県公共事業景観形成指針」「佐賀市景観計画」等に基づいて、景観アドバイザー(*P83)との協議や庁内及び関係機関と調整を図り、個々の事業における質の高い整備と、地域全体におけるデザインの一貫性や連続性を実現していく必要があります。
- ・また、快適で魅力的な歩行環境の整備、回遊性の向上等、地域活性化や市民の豊かな暮らしへ寄与する効果的な公共事業を実施しながら、公共空間整備を契機とした戦略的な景観づくりの推進が求められています。



市道大財木原線



多布施川

国道263号
(歩道・自転車道)

■人々の暮らしや活動によって育まれている景観の保全

- ・山々のみどり、棚田や広大な佐賀平野、河川やクリーク等の水辺などの自然景観は、そこに住む人々の暮らしや活動の結果として、長い時間をかけて育まれてきたものですが、日々の生活に根ざした身近な景観であるため、日頃その価値にはなかなか気づきにくいものです。
- ・このような自然と人が織りなす景観は、その地域に住む人々が、どのように自然を相手にうまく付き合いながら暮らしてきたのかを理解するために欠くことができないものであり、これを後世に伝えていくことが求められます。また、景観的な魅力があるだけでなく、水源かん養機能、生物多様性の維持、治水や利水機能等、様々な役割を有しているという意味においても重要です。
- ・市民意識調査からも、豊かな自然のみどりや水辺が減少していること、管理されていない田畑等が増えていることを懸念する意見が多く、自然景観の保全に対する市民の意識が高いことが分かります。
- ・自然と人が織りなす景観を守っていくためには、そこに住む人々の暮らしや活動も含めた景観保全や、これらの景観の重要性についての市民意識の向上を促進する啓発等の施策を検討する必要があります。

■景観まちづくりに対する市民意識の醸成

- ・本市の景観は、長い時間をかけ形づくられたものであり、市内各所にその歴史、文化、自然が魅力ある景観資源となって表れています。
- ・特に、古い歴史と伝統文化に彩られた佐賀城跡や城下町周辺は、当時のお堀や町割、武家屋敷や町家等の歴史的建造物、楠や桜をはじめとした樹木により、風格のある景観を形成しています。
- ・これらの景観資源は、市民が愛着や誇りを感じているものが多く、保全及び活用するための施策を検討することが求められます。
- ・魅力的な景観資源の中には、市民や事業者の清掃活動等により、その景観が維持、形成されているものも多いため、広報・表彰等、景観への意識の醸成を図る施策が必要です。



広大な佐賀平野での農作業（久保田町）



西中野団地の生垣保全活動
(平成16年度 景観賞特別表彰)